

藤井寺市発掘調査概報 第7号

はざみ山遺跡 (HM2010-9区)



2011年11月

藤井寺市教育委員会

はざみ山遺跡（HM2010－9区）

位置と環境

調査区は、羽曳野丘陵から派生する下位段丘上にあり、周辺の地形は北東に下降する。

西に約100mには、はざみ山古墳がある。調査区の西側、はざみ山古墳との間では、これまでに、HM93－9区・95－16区・96－16区といった調査を実施し、古代の掘立柱建物、井戸、土壙、溝などを検出している。また、HM92－5区の調査でも、古代の掘立柱建物と溝を検出している。これらはいずれも8世紀代以前の所産である。

以上のことから、調査区の西側では、8世紀代以前に古代集落が展開していくことがわかる。

これに対し、東側に向かうと、善田御廟山古墳との間に地形分類上の氾濫原が存在する。このことから、調査区は、古代集落が展開する台地の東側の端に近いことがわかる。

今回の調査は、上記のような認識のもとに古代集落の広がりを確認することを主な目的として実施した。

調査の経過

建物建設に伴う文化財保護法第93条第1項の届出が提出されたため、協議を行い、申請者の依頼を受けて、建物建設部分にトレンチを設定して調査を実施した。調査面積は約572m²である。

調査区は、もとは農地として使用されていた。現状のレベルは、南端でT.P.26.6m、北端でT.P.26.0m程度で、約0.6mの比高が認められる。

耕土（第1層）の下には床土である明褐灰色細砂（第2層）が薄く堆積することが基本であるが、認められない部分もある。

トレンチ南半部では、第1層と第2層との間には、部分的に、暗褐灰色細砂（第25層）、暗褐灰色細砂と灰色細砂が混じる層（第26層）が薄く堆積している。また、第2層の下には、淡灰色細砂（第3層）が部分的に堆積している。これら各層を除去すると地山があらわれる。

これに対して、トレンチ北半部では、第1層と第2層の間に別の層の堆積は認められない。第2層の下には、第3層や、黄灰色細砂（第5層）、砂礫を少量含む灰色細砂（第6層）、明黄灰色細砂（第8層）、淡黄灰色細砂（第9層）、暗灰黄色細砂（第10層）、暗灰色細砂が混じる暗黄褐色細砂（第16層）といった各層が堆積している。これらを除去すると地山があらわれる。

地山の土質は、黄灰色細砂（A層）であるが、トレンチ中央付近では、A層がなく、その下層である1~5cm大の礫が混じる黄褐色粗砂（C層）が表面にあらわれている部分もある。なお、トレンチ南西隅では、暗黄灰色粗砂（B層）が地山としてせまい範囲に認められる。B層は層位的にはAよりも下層である。

地山レベルは、トレンチ南端でT.P.26.0m、北端でT.P.25.8m程度で、約0.2mの比高が認められる。

遺構は、掘立柱建物、溝、井戸、土壙、ピット、落ち込みがある。

遺構の検出は、トレンチ中央部から南側にかけては地山上で行った。トレンチ北側には落ち込み（SX01）があり、その埋土の上面で検出を行った。そして掘立柱建物の一部となる柱穴を検出した。しかし、この検出ではSX01の埋土と柱穴の埋土とを見分けることが困難な部分もあり、建物を構成するすべての柱穴を認識できなかった。このため、埋土を除去して地上面で再度柱穴の検出を行ったことで初めて掘立柱建物の存在を認識できたものもあった。

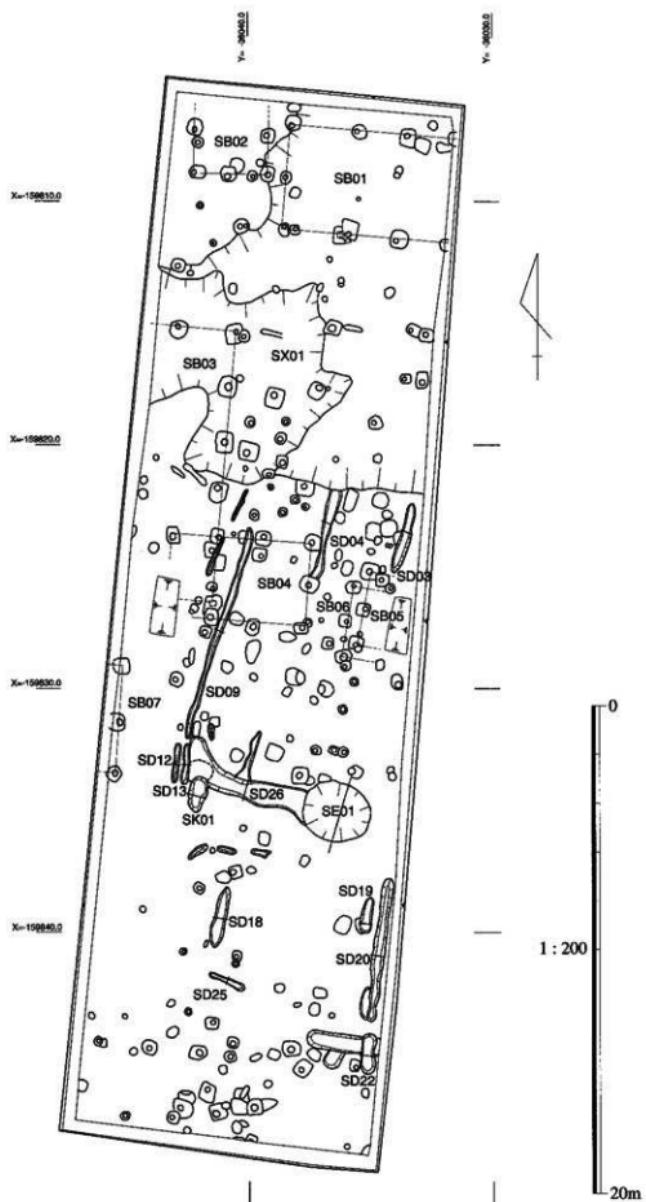


図1 遺構平面図

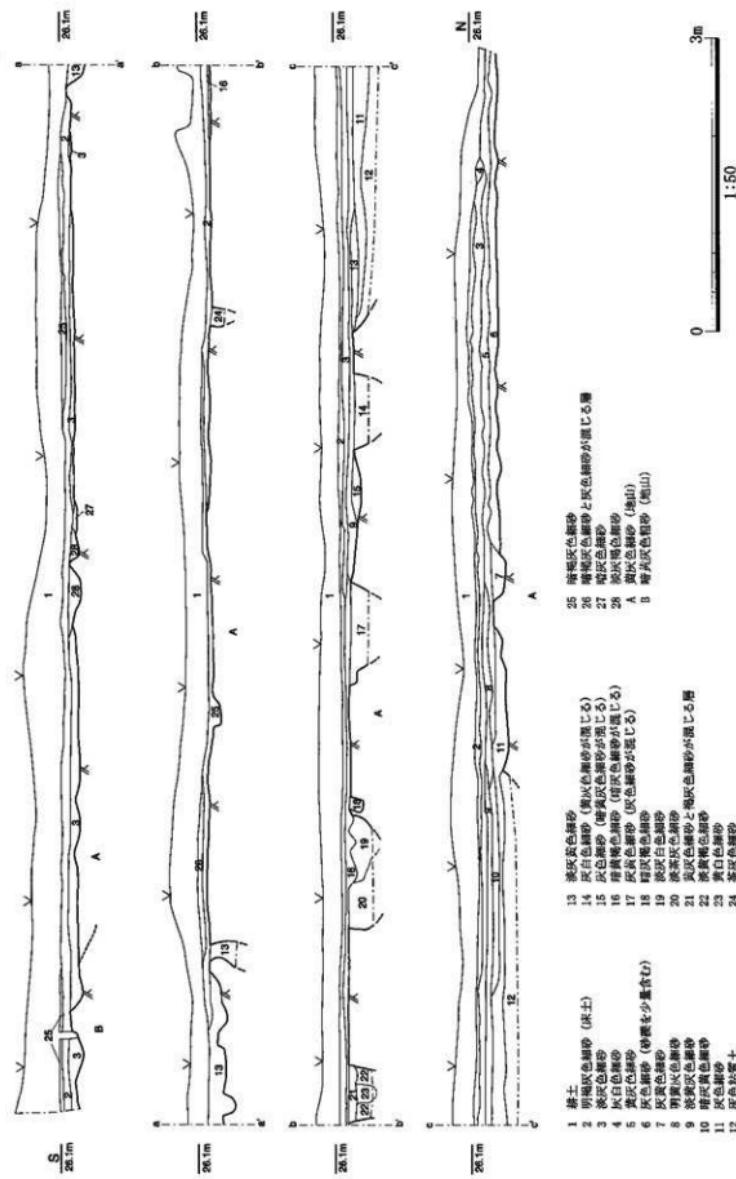


図2 トレンチ断面図

調査の成果

遺構

主な遺構について述べる。

SB01 トレンチ北端で検出した2間×3間以上の建物。主軸方向はN-85°-Wで、柱間は梁行2.15m、桁行2.1～2.6m程度、全長は梁行4.3m、桁行6.8m以上である。柱掘方の平面形態はいびつな円形も認められるが隅丸方形を基本とするようである。一辺0.4～0.8m程度と大きさにばらつきがある。柱穴の内の3つに柱の木の一部が残存していた。

SB02 トレンチ北端で検出した2間×2間以上の建物。北側の大半がトレンチ外に展開するが、北側のトレンチ壁に継ぎの柱穴が確認でき、南北方向を主軸とする建物であると思われる。柱間は東西1.4～1.6m、南北1.6～1.8m、全長は東西3.0mである。柱掘方の平面形態は隅丸方形を呈し、一辺0.5～0.7m程度である。

SB03 トレンチ中央部北西寄りで検出した2間以上×5間の建物。SB04に切られる。主軸方向はN-4°-Wで、柱間は梁行2.4m、桁行1.9～2.5m程度、全長は桁行11.2mである。柱掘方の平面形態は隅丸方形を呈し、一辺0.6～0.8m程度である。

SB04 トレンチ中央部で検出した2間×3間の建物。SB03を切る。主軸方向はN-86°-Wで、柱間は梁行1.7m、桁行1.9m程度、全長は桁行5.8mである。柱掘方の平面形態は隅丸方形を呈し、一辺0.5～0.8m程度である。

SB05 トレンチ中央部東寄りで検出した建物。SB06と重複している。南北方向は2間だが、東西は不明である。軸角はN-11°-Eで、柱間は1.5m程度である。柱掘方の平面形態は隅丸方形を呈し、一辺0.5～0.7m程度である。

SB06 トレンチ中央部東寄りで検出した建物。SB05と重複している。南北方向は2間だが、東西は不明である。軸角はN-10°-Eで、柱間は1.5m程度である。柱掘方の平面形態は隅丸方形を呈し、一辺0.5～0.7m程度である。

SB07 トレンチ南半部西寄りで検出した建物。南北方向は2間だが、東西は不明である。軸角はN-4°-Eで、柱間は2.1～2.3mである。柱掘方の平面形態は隅丸方形を呈し、一辺0.6～0.7m程度である。

SD26 トレンチ南半部で検出したほぼ東西方向に走る溝。SE01、SK01に切られる。最大幅は1m程度を測る。断面形態は皿状を呈し、深さ0.15mを測る。SE01に切られることから、この溝の埋没時期の下限は9世紀代であることが分かる。その状況からSE01と一連のものとして、SE01に水を流し込むような機能を担っていたとも想定される。そうだとすると、この溝とSE01が機能していたのは同時期ということになる。

SE01 トレンチ南半部で検出した井戸。SD26を切る。平面形態は楕円形を呈し、直径は長径2.8m、短径2.4mを測る。湧水等のために完掘できなかったが、断面形態は上端からやや緩やかに落ち込む。土層断面の観察(図7)から、この井戸がいったん埋まった後、埋土が沈下してくぼみができる、そこに第1～12層といったような層が再び堆積した状況が推測される。

埋土から土師器杯、壺、須恵器杯蓋、壺、円面鏡が出土した。これらは9世紀代の所産である。この井戸の埋没の上限も同時期に求められる。

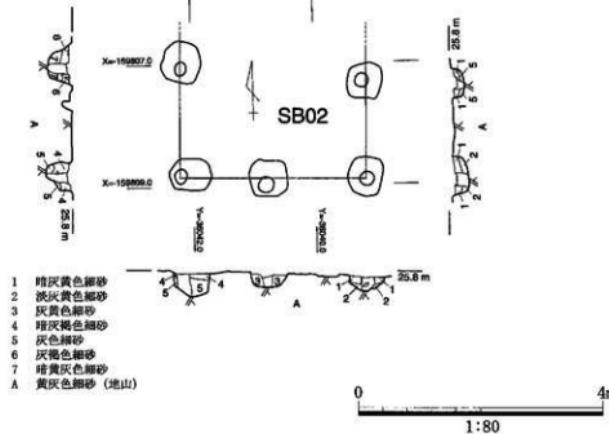
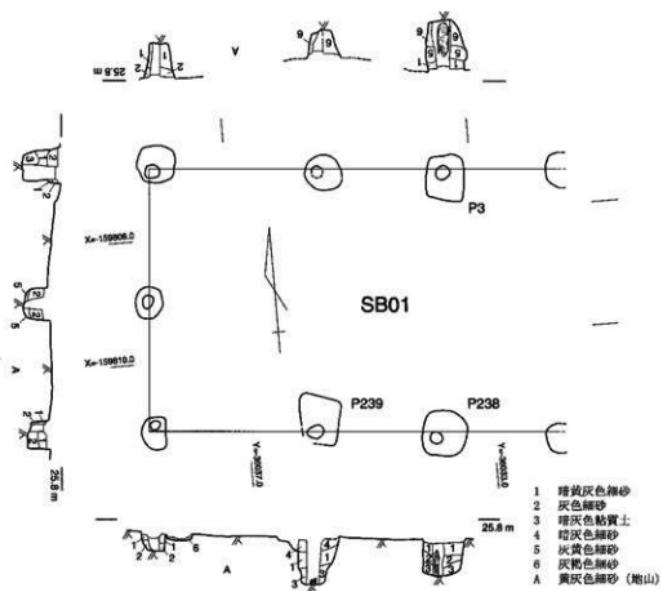


图 3 SB01·02 平面·断面图

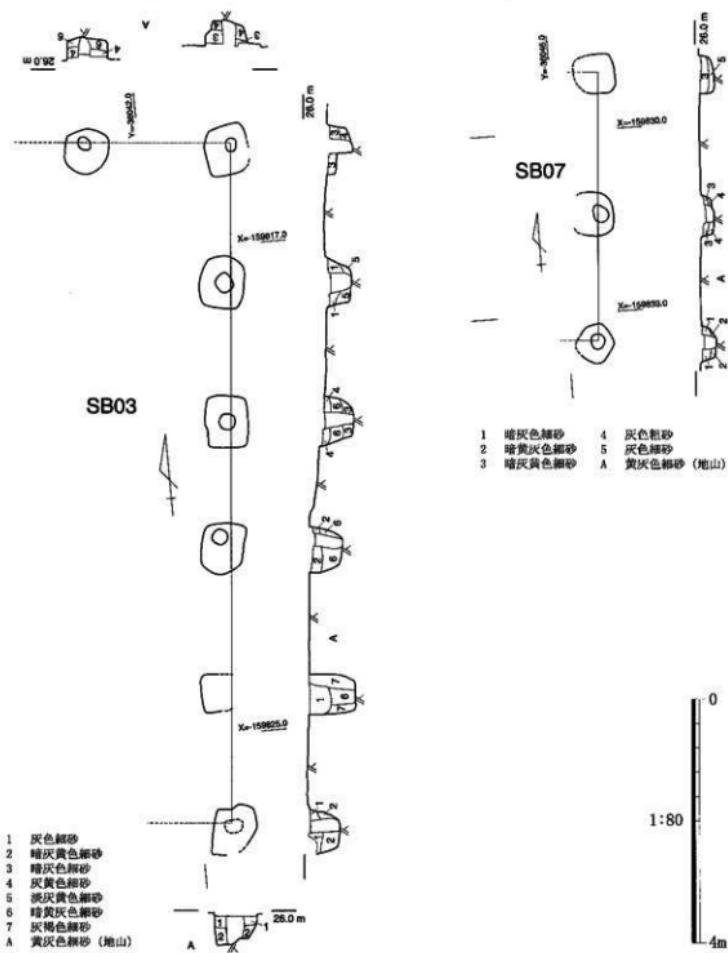


図4 SB03・07 平面・断面図

遺物 (図8)

遺物は整理用コンテナ5箱分出土した。SEO1出土遺物について述べる。

土師器杯は7点を図化した(1~7)。底部からなめ上方向にほぼ直線的に立ち上がる体部及び口縁部を有し、体部外面に指頭痕を顕著に残すもの(1~6)と、底部から内彎ぎみに体部が立ち上がり、口縁部が外反するもの(7)がある。いずれも内面はナデ調整を施している。前者は口径12~15.5cm、器高3.5cm程度、後者は口径14.3cmを測る。土師器甕は2点を図化した(8・9)。口径は17cmと21.5cmを測り、体部外面に指頭痕を残す。内面はナデ調整を施す。須恵器は杯蓋(10)、壺(11)、円面鏡(12)を図化した。

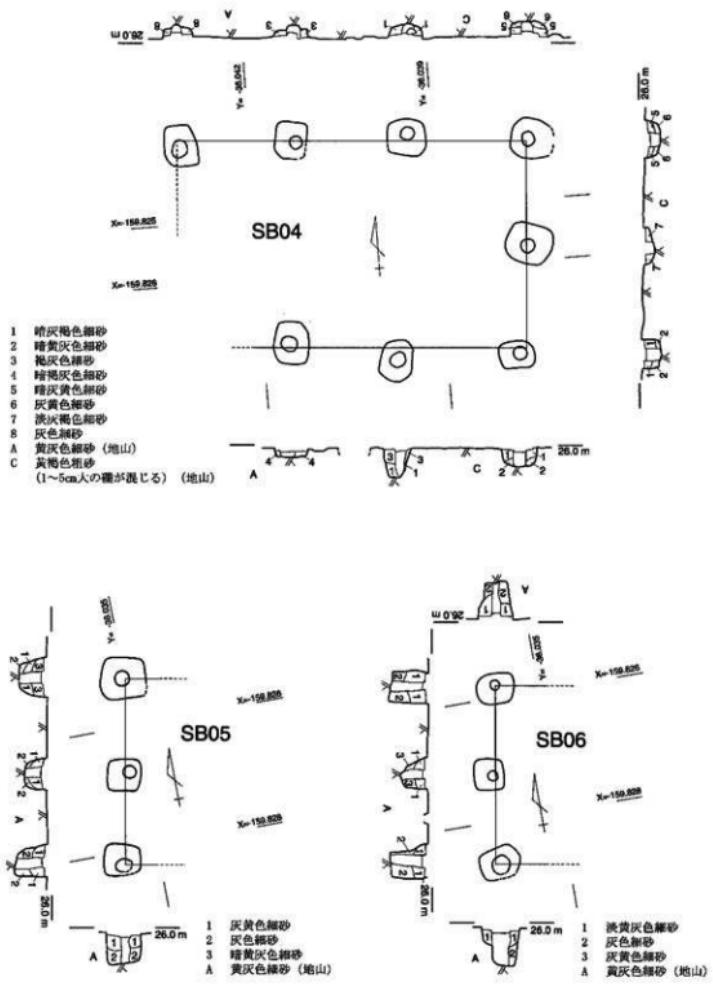


図5 SB04～06 平面・断面図

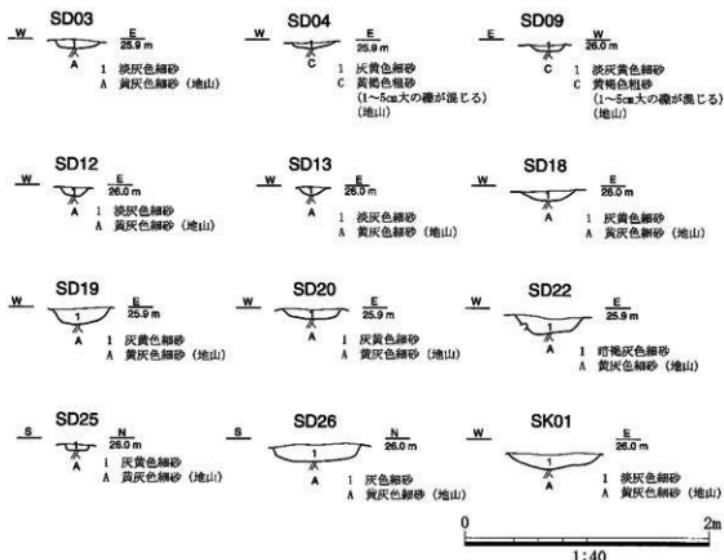


図6 各連構断面図

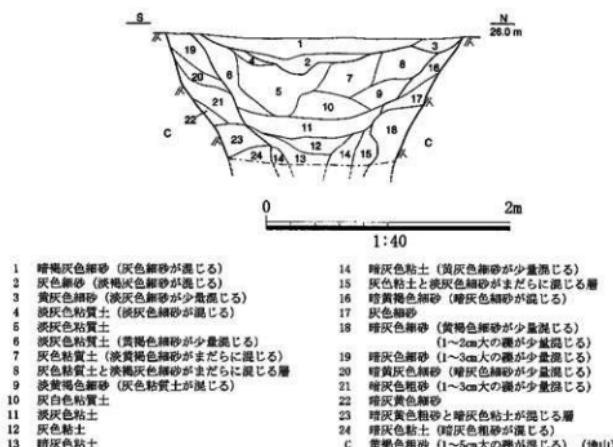


図7 SE01 断面図

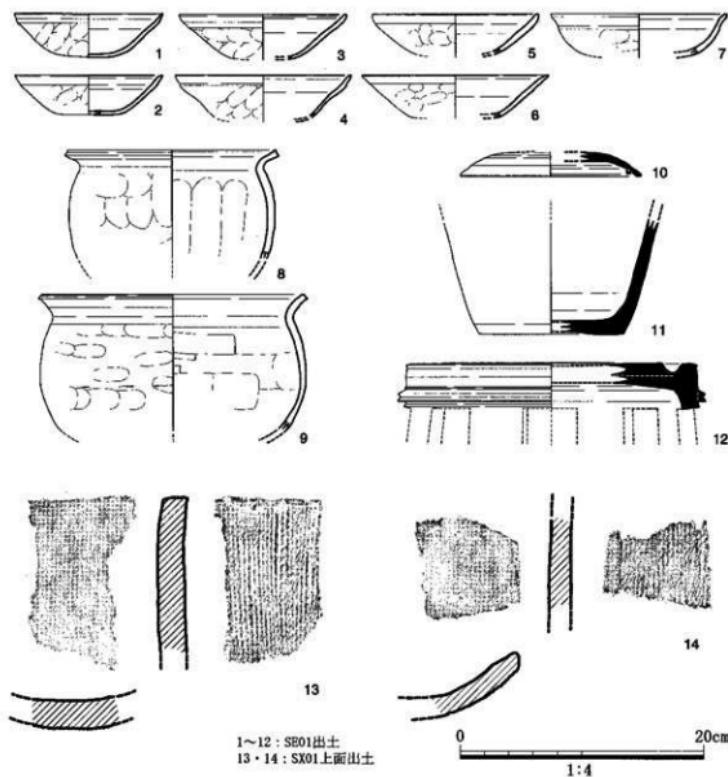


図8 遺物実測図

小結

今回の調査では、古代集落のさらなる広がりが確認できた。はざみ山古墳と野中宮山古墳の東側は掘立柱建物を主体とした古代集落が展開する地域である。中でもHM95-5区のように、野中宮山古墳と越中塚古墳にはさまれたような場所でも掘立柱建物が見つかったことは、古墳に隣接した土地にまで家を建てるといった古代の人々の考え方を象徴的にあらわす事象であるといえよう。今回見つかった掘立柱建物も、このような考え方に基づいて形成された集落の一部ということになる。古代集落の展開と古墳との関係については、周辺の調査成果も視野に入れて検討していきたい。

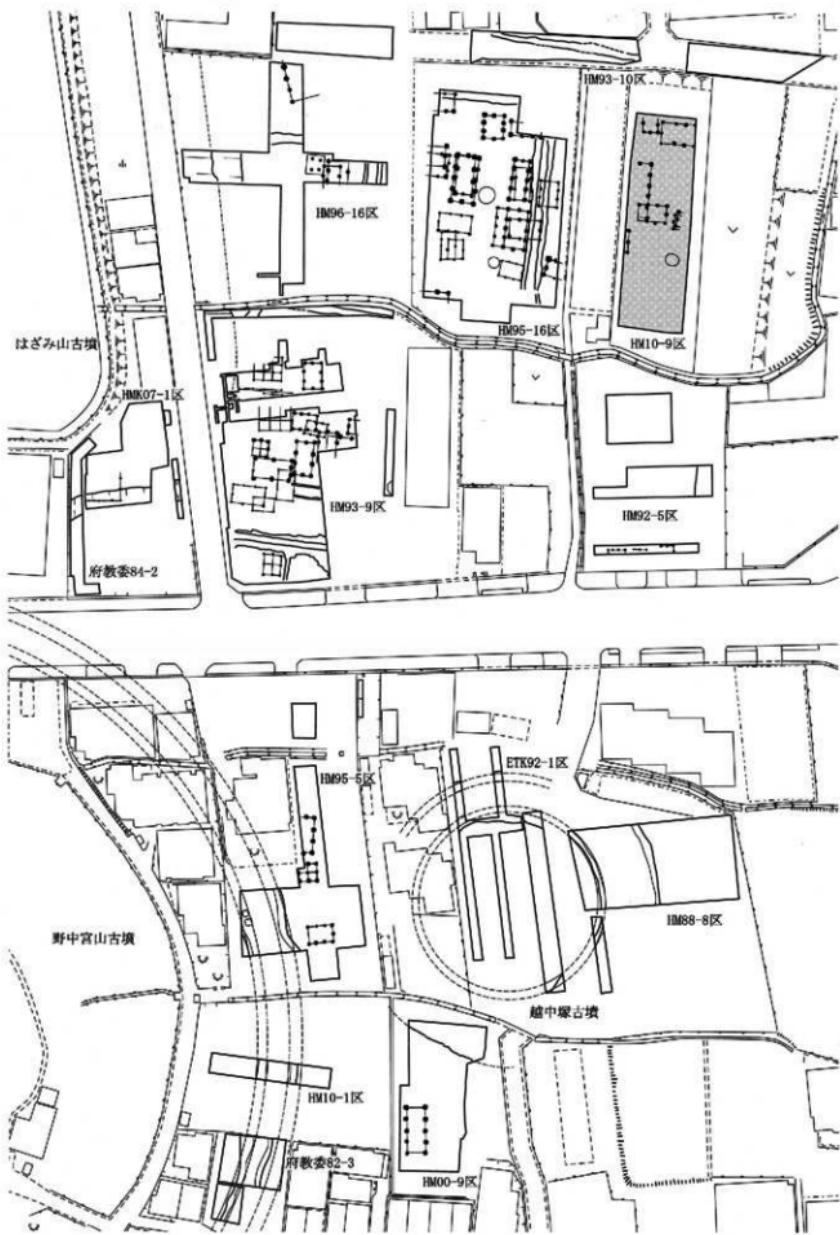


図9 調査区周辺図 (S = 1 : 1,000)



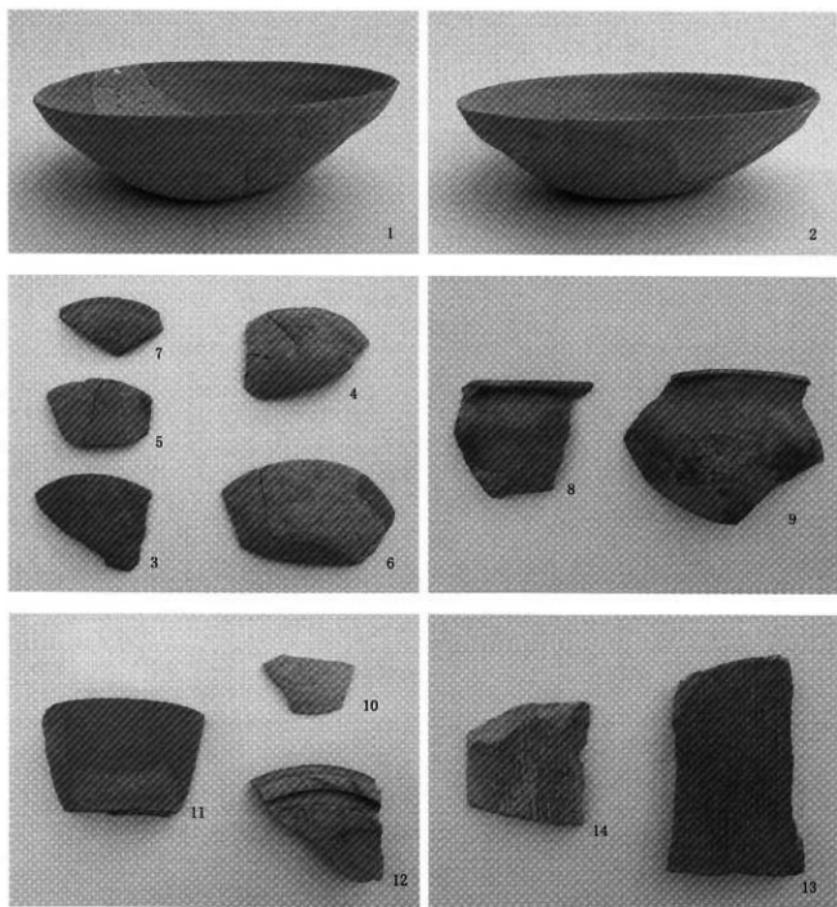
全景（北より）



SE01（東より）



全景（南より）



出土遺物 (1~12: SE01、13・14: SX01 上面)

参考文献

- 大阪府教育委員会 1983 「82-3区」「昭和57年度 はさみ山遺跡発掘調査概要」
 大阪府教育委員会 1985 「84-2区」「はさみ山遺跡発掘調査概要 大阪府文化財調査概要 1984年度」
 山田幸弘 1989 「はさみ山遺跡 HM88-8区」「石川流域遺跡群発掘調査報告」IV 藤井寺市教育委員会
 中西康裕 1993 「はさみ山遺跡 HM92-5区」「石川流域遺跡群発掘調査報告」VII 藤井寺市教育委員会
 新開義夫 1993 「越中塙古墳 ETK92-1区」「石川流域遺跡群発掘調査報告」VIII 藤井寺市教育委員会
 山田幸弘 1994 「はさみ山遺跡 HM93-10区」「石川流域遺跡群発掘調査報告」IX 藤井寺市教育委員会
 新開義夫 1995 「はさみ山遺跡 HM93-9区」「石川流域遺跡群発掘調査報告」X 藤井寺市教育委員会
 新開義夫 1997 「はさみ山遺跡 HM95-5区」「HM95-16区」「石川流域遺跡群発掘調査報告」XI 藤井寺市教育委員会
 新開義夫 1998 「はさみ山遺跡 HM96-16区」「石川流域遺跡群発掘調査報告」XII 藤井寺市教育委員会
 佐々木理 2003 「はさみ山遺跡 HM00-9区」「石川流域遺跡群発掘調査報告」XIII 藤井寺市教育委員会

例 言

- 1 本書は、老人ホーム建設に伴い2010年度に実施した、はざみ山遺跡（HM2010-9区）発掘調査の概要報告書である。調査地は、藤井寺市野中1丁目100-1他に所在する。
- 2 調査は、申請者の依頼を受け、藤井寺市教育委員会事務局教育部文化財保護課が実施した。期間は、現地調査（外業）2010年12月1日～2011年1月24日、整理作業（内業）2011年4月11日～11月17日である。
- 3 調査及び本書の作成は、新聞義夫、今莊ひとみ、木本泰、寺崎理恵、深尾まき子が行なった。
- 4 写真の撮影は新聞が行なった。
- 5 図面の方位は、特に断りのない限り座標北を使用した。標高はT.P.を用いた。トレンチ位置図は、上を座標北とした。

報告書抄録

ふりがな	はざみやまいせき
書名	はざみ山遺跡
副書名	HM2010-9区
シリーズ名	藤井寺市発掘調査概報
シリーズ番号	第7号
編著者名	新聞義夫
編集機関	藤井寺市教育委員会
所在地	〒583-8583 大阪府藤井寺市岡1丁目1番1号 TEL 072-939-1111㈹
発行年月日	西暦 2011年11月18日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東經	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
はざみ山遺跡	大阪府 藤井寺市 野中	27226	51	34°33'42"	135°36'15"	現地調査（外業） 2010年12月1日 ～2011年1月24 日 整理作業（内業） 2011年4月11 日～11月17日	572	老人ホーム 建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
はざみ山遺跡	集落跡	古代	据立柱建物、井戸、溝、 土壤	土師器、須恵器、瓦	

藤井寺市発掘調査概報 第7号

はざみ山遺跡（HM2010-9区）

発行日 2011年11月18日
 編集・発行 藤井寺市教育委員会事務局
 藤井寺市岡1丁目1番1号
 TEL (072) 939-1111㈹
 印刷 株式会社近畿印刷センター
 柏原市本郷5丁目6番25号

